

第 61 回「山形県内家計の消費動向調査」結果

(令和 3 年 9 月調査)

消費マインドは持ち直しの動きに一服感がみられる

【調査の要旨】

- **消費指数**は、▲101.6 (前期比 3.9 ポイント下落) と 3 期ぶりの悪化となった。内訳は景気判断指数が▲57.6 (前期比 0.7 ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲44.0 (前期比 3.2 ポイント下落) といずれの指数も悪化となった。
- **今後の見通し**は、**消費指数が▲100.5 (今回調査比 1.1 ポイント上昇) と小幅ながら改善の見込み**となっている。内訳は景気判断指数が▲53.9 (今回調査比 3.7 ポイント上昇) と改善の見込みながら、暮らし向き判断指数が▲46.6 (今回調査比 2.6 ポイント下落) と悪化が見込まれている。
- **大きな買い物**への支出意向をみると、「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」で上昇となり、「自家用車 (中古車含む)」「住宅リフォーム」「海外旅行」の 3 項目で低下となった。
- **家計簿調査**は、収入面では可処分所得 (収入の手取り額) が 497 千円と前年同期に比べて 26 千円の減少となった。支出面では支出計が 387 千円と前年同期比で 14 千円の減少となった。その結果、平均消費性向 (家計支出/可処分所得) は 77.8% となり、前年同期に比べて 1.2 ポイントの上昇となった。
- **夏季ボーナスの支給状況**を尋ねたところ、「支給された」が 72.9% (前年比 1.2 ポイント低下) と前年に比べて低下したものの、7 割以上を占めた。

令和 3 年 9 月
株式会社フィデア情報総研

目次

I.	消費指数（総括）	1
II.	消費指数（内訳）	3
1.	景気判断	3
（1）	景気判断の概況	3
（2）	景気判断の推移	4
2.	暮らし向き判断	5
（1）	暮らし向き判断の概況	5
（2）	暮らし向き判断の推移	6
III.	支出意向	7
（1）	支出意向D Iの推移	7
（2）	支出意向（大きな買い物）の推移	8
IV.	家計簿調査	9
V.	特別調査	11
1.	夏季ボーナスの支給状況と使い道について	11
（1）	夏季ボーナス支給の有無	11
（2）	支給状況	11
（3）	主な使い道	12
（4）	夏季ボーナスを貯蓄する目的	12
VI.	調査の概要	13

I. 消費指数（総括）

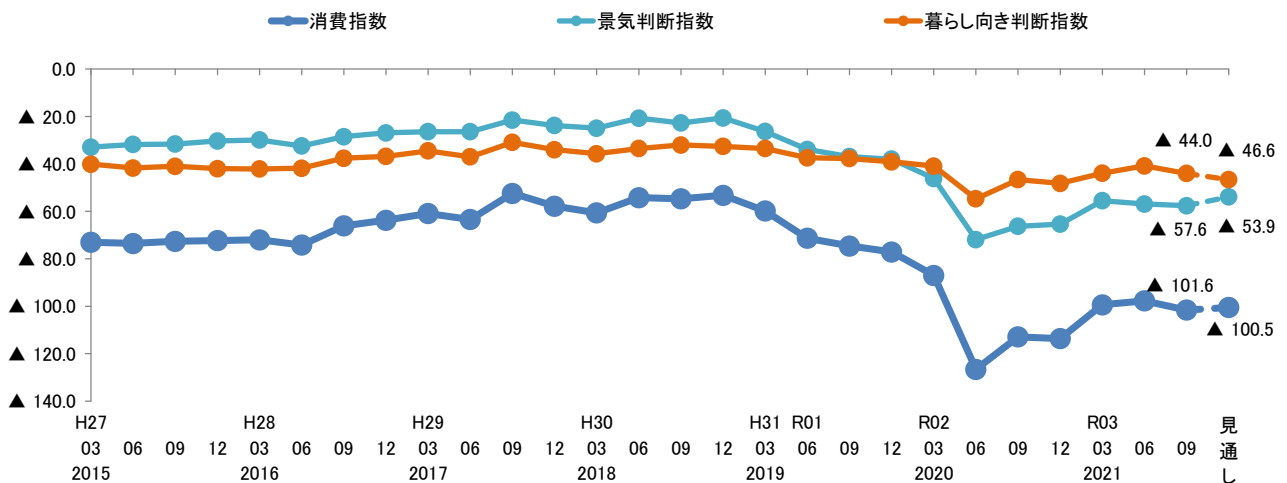
～消費マインドは持ち直しの動きに一服感がみられる～

消費指数は▲101.6（前期比 3.9 ポイント下落）と 3 期ぶりの悪化となった。内訳は景気判断指数が▲57.6（前期比 0.7 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲44.0（前期比 3.2 ポイント下落）といずれの指数も悪化となった。

今後の見通しについては、消費指数が▲100.5（今回調査比 1.1 ポイント上昇）と小幅ながら改善の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲53.9（今回調査比 3.7 ポイント上昇）と改善の見込みながら、暮らし向き判断指数が▲46.6（今回調査比 2.6 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

消費マインドは、令和 2 年 6 月調査以降、改善傾向にあったが、ここに来て持ち直しの動きに一服感がみられる。先行きについても、改善の見通しではあるものの、上昇幅は小さく、足踏み状態が続くものと思われる。

図表 1 消費指数の推移



【指数の見方】

消費指数は（1）景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と（2）暮らし向き指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

数値は四捨五入により一致しない場合があります。

図表 2 消費指数（内訳）の推移

消費指数											
調査時期	消費指数	(1) 景気判断指数					(2) 暮らし向き判断指数				
		①景気	②雇用環境	③物価	④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり			
28年	9月	▲ 66.1	▲ 28.5	▲ 7.3	▲ 4.4	▲ 16.8	▲ 37.6	▲ 8.0	▲ 11.0	▲ 7.2	▲ 11.4
	12月	▲ 63.7	▲ 26.9	▲ 6.1	▲ 3.8	▲ 17.0	▲ 36.8	▲ 7.5	▲ 10.1	▲ 7.5	▲ 11.7
29年	3月	▲ 60.9	▲ 26.4	▲ 5.9	▲ 4.0	▲ 16.5	▲ 34.5	▲ 7.0	▲ 9.3	▲ 7.1	▲ 11.1
	6月	▲ 63.4	▲ 26.4	▲ 5.2	▲ 1.1	▲ 20.1	▲ 37.0	▲ 7.0	▲ 10.2	▲ 7.8	▲ 12.0
	9月	▲ 52.4	▲ 21.5	▲ 5.1	▲ 0.1	▲ 16.3	▲ 30.9	▲ 6.3	▲ 9.0	▲ 5.1	▲ 10.5
	12月	▲ 57.8	▲ 23.8	▲ 4.8	▲ 0.3	▲ 18.7	▲ 34.0	▲ 7.4	▲ 8.7	▲ 6.2	▲ 11.7
30年	3月	▲ 60.6	▲ 24.9	▲ 4.3	▲ 0.4	▲ 20.2	▲ 35.7	▲ 7.1	▲ 9.9	▲ 7.0	▲ 11.7
	6月	▲ 54.2	▲ 20.7	▲ 2.9	0.4	▲ 18.2	▲ 33.5	▲ 6.8	▲ 9.8	▲ 5.5	▲ 11.4
	9月	▲ 54.7	▲ 22.7	▲ 4.2	▲ 0.8	▲ 17.7	▲ 32.0	▲ 7.0	▲ 9.4	▲ 5.0	▲ 10.6
	12月	▲ 53.2	▲ 20.6	▲ 4.3	0.6	▲ 16.9	▲ 32.6	▲ 7.0	▲ 8.7	▲ 6.0	▲ 10.9
31年	3月	▲ 59.8	▲ 26.3	▲ 6.6	▲ 0.6	▲ 19.1	▲ 33.5	▲ 6.5	▲ 9.5	▲ 6.6	▲ 10.9
	6月	▲ 71.3	▲ 33.9	▲ 8.9	▲ 3.4	▲ 21.6	▲ 37.4	▲ 8.2	▲ 9.8	▲ 7.3	▲ 12.1
	9月	▲ 74.6	▲ 36.9	▲ 9.8	▲ 5.4	▲ 21.7	▲ 37.7	▲ 9.6	▲ 9.7	▲ 6.8	▲ 11.6
	12月	▲ 77.1	▲ 38.0	▲ 10.1	▲ 5.6	▲ 22.3	▲ 39.1	▲ 8.8	▲ 10.7	▲ 7.7	▲ 11.9
02年	3月	▲ 87.0	▲ 46.1	▲ 15.6	▲ 10.2	▲ 20.3	▲ 40.9	▲ 9.0	▲ 11.6	▲ 8.1	▲ 12.2
	6月	▲ 126.6	▲ 71.9	▲ 25.1	▲ 25.3	▲ 21.5	▲ 54.7	▲ 12.8	▲ 13.6	▲ 13.1	▲ 15.2
	9月	▲ 112.9	▲ 66.3	▲ 23.0	▲ 21.6	▲ 21.7	▲ 46.6	▲ 11.5	▲ 11.0	▲ 11.0	▲ 13.1
	12月	▲ 113.6	▲ 65.4	▲ 23.5	▲ 23.4	▲ 18.5	▲ 48.2	▲ 12.7	▲ 11.5	▲ 10.7	▲ 13.3
03年	3月	▲ 99.4	▲ 55.5	▲ 18.2	▲ 18.5	▲ 18.8	▲ 43.9	▲ 10.6	▲ 9.5	▲ 11.9	▲ 11.9
	6月	▲ 97.7	▲ 56.9	▲ 17.8	▲ 17.4	▲ 21.7	▲ 40.8	▲ 10.0	▲ 9.1	▲ 10.0	▲ 11.7
	9月	▲ 101.6	▲ 57.6	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 23.9	▲ 44.0	▲ 10.2	▲ 9.7	▲ 12.0	▲ 12.1
	見通し	▲ 100.5	▲ 53.9	▲ 16.2	▲ 15.1	▲ 22.6	▲ 46.6	▲ 11.0	▲ 11.3	▲ 12.2	▲ 12.1

(前期差)

消費指数											
調査時期	消費指数	(1) 景気判断指数					(2) 暮らし向き判断指数				
		①景気	②雇用環境	③物価	④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり			
28年	9月	8.1	3.9	1.8	0.9	1.2	4.2	0.5	0.8	1.1	1.8
	12月	2.4	1.6	1.2	0.6	▲ 0.2	0.8	0.5	0.9	▲ 0.3	▲ 0.3
29年	3月	2.8	0.5	0.2	▲ 0.2	0.5	2.3	0.5	0.8	0.4	0.6
	6月	▲ 2.5	0.0	0.7	2.9	▲ 3.6	▲ 2.5	0.0	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.9
	9月	11.0	4.9	0.1	1.0	3.8	6.1	0.7	1.2	2.7	1.5
	12月	▲ 5.4	▲ 2.3	0.3	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 3.1	▲ 1.1	0.3	▲ 1.1	▲ 1.2
30年	3月	▲ 2.8	▲ 1.1	0.5	▲ 0.1	▲ 1.5	▲ 1.7	0.3	▲ 1.2	▲ 0.8	0.0
	6月	6.4	4.2	1.4	0.8	2.0	2.2	0.3	0.1	1.5	0.3
	9月	▲ 0.5	▲ 2.0	▲ 1.3	▲ 1.2	0.5	1.5	▲ 0.2	0.4	0.5	0.8
	12月	1.5	2.1	▲ 0.1	1.4	0.8	▲ 0.6	0.0	0.7	▲ 1.0	▲ 0.3
31年	3月	▲ 6.6	▲ 5.7	▲ 2.3	▲ 1.2	▲ 2.2	▲ 0.9	0.5	▲ 0.8	▲ 0.6	0.0
	6月	▲ 11.5	▲ 7.6	▲ 2.3	▲ 2.8	▲ 2.5	▲ 3.9	▲ 1.7	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 1.2
	9月	▲ 3.3	▲ 3.0	▲ 0.9	▲ 2.0	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.4	0.1	0.5	0.5
	12月	▲ 2.5	▲ 1.1	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 1.4	0.8	▲ 1.0	▲ 0.9	▲ 0.3
02年	3月	▲ 9.9	▲ 8.1	▲ 5.5	▲ 4.6	2.0	▲ 1.8	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 0.3
	6月	▲ 39.6	▲ 25.8	▲ 9.5	▲ 15.1	▲ 1.2	▲ 13.8	▲ 3.8	▲ 2.0	▲ 5.0	▲ 3.0
	9月	13.7	5.6	2.1	3.7	▲ 0.2	8.1	1.3	2.6	2.1	2.1
	12月	▲ 0.7	0.9	▲ 0.5	▲ 1.8	3.2	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 0.5	0.3	▲ 0.2
03年	3月	14.2	9.9	5.3	4.9	▲ 0.3	4.3	2.1	2.0	▲ 1.2	1.4
	6月	1.7	▲ 1.4	0.4	1.1	▲ 2.9	3.1	0.6	0.4	1.9	0.2
	9月	▲ 3.9	▲ 0.7	0.0	1.5	▲ 2.2	▲ 3.2	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 2.0	▲ 0.4
	見通し	1.1	3.7	1.6	0.8	1.3	▲ 2.6	▲ 0.8	▲ 1.6	▲ 0.2	0.0

(前年同期差)

消費指数											
調査時期	消費指数	(1) 景気判断指数					(2) 暮らし向き判断指数				
		①景気	②雇用環境	③物価	④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり			
28年	9月	6.5	3.1	▲ 1.0	▲ 0.8	4.9	3.4	0.8	0.0	1.0	1.6
	12月	8.6	3.4	0.6	1.0	1.8	5.2	1.4	1.1	1.3	1.4
29年	3月	11.1	3.5	1.4	0.5	1.6	7.6	1.3	2.6	1.6	2.1
	6月	10.8	6.0	3.9	4.2	▲ 2.1	4.8	1.5	1.6	0.5	1.2
	9月	13.7	7.0	2.2	4.3	0.5	6.7	1.7	2.0	2.1	0.9
	12月	5.9	3.1	1.3	3.5	▲ 1.7	2.8	0.1	1.4	1.3	0.0
30年	3月	0.3	1.5	1.6	3.6	▲ 3.7	▲ 1.2	▲ 0.1	▲ 0.6	0.1	▲ 0.6
	6月	9.2	5.7	2.3	1.5	1.9	3.5	0.2	0.4	2.3	0.6
	9月	▲ 2.3	▲ 1.2	0.9	▲ 0.7	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 0.7	▲ 0.4	0.1	▲ 0.1
	12月	4.6	3.2	0.5	0.9	1.8	1.4	0.4	0.0	0.2	0.8
31年	3月	0.8	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 0.2	1.1	2.2	0.6	0.4	0.4	0.8
	6月	▲ 17.1	▲ 13.2	▲ 6.0	▲ 3.8	▲ 3.4	▲ 3.9	▲ 1.4	0.0	▲ 1.8	▲ 0.7
	9月	▲ 19.9	▲ 14.2	▲ 5.6	▲ 4.6	▲ 4.0	▲ 5.7	▲ 2.6	▲ 0.3	▲ 1.8	▲ 1.0
	12月	▲ 23.9	▲ 17.4	▲ 5.8	▲ 6.2	▲ 5.4	▲ 6.5	▲ 1.8	▲ 2.0	▲ 1.7	▲ 1.0
02年	3月	▲ 27.2	▲ 19.8	▲ 9.0	▲ 9.6	▲ 1.2	▲ 7.4	▲ 2.5	▲ 2.1	▲ 1.5	▲ 1.3
	6月	▲ 55.3	▲ 38.0	▲ 16.2	▲ 21.9	0.1	▲ 17.3	▲ 4.6	▲ 3.8	▲ 5.8	▲ 3.1
	9月	▲ 38.3	▲ 29.4	▲ 13.2	▲ 16.2	0.0	▲ 8.9	▲ 1.9	▲ 1.3	▲ 4.2	▲ 1.5
	12月	▲ 36.5	▲ 27.4	▲ 13.4	▲ 17.8	3.8	▲ 9.1	▲ 3.9	▲ 0.8	▲ 3.0	▲ 1.4
03年	3月	▲ 12.4	▲ 9.4	▲ 2.6	▲ 8.3	1.5	▲ 3.0	▲ 1.6	2.1	▲ 3.8	0.3
	6月	28.9	15.0	7.3	7.9	▲ 0.2	13.9	2.8	4.5	3.1	3.5
	9月	11.3	8.7	5.2	5.7	▲ 2.2	2.6	1.3	1.3	▲ 1.0	1.0
	見通し	13.1	11.5	7.3	8.3	▲ 4.1	1.6	1.7	0.2	▲ 1.5	1.2

II. 消費指数（内訳）

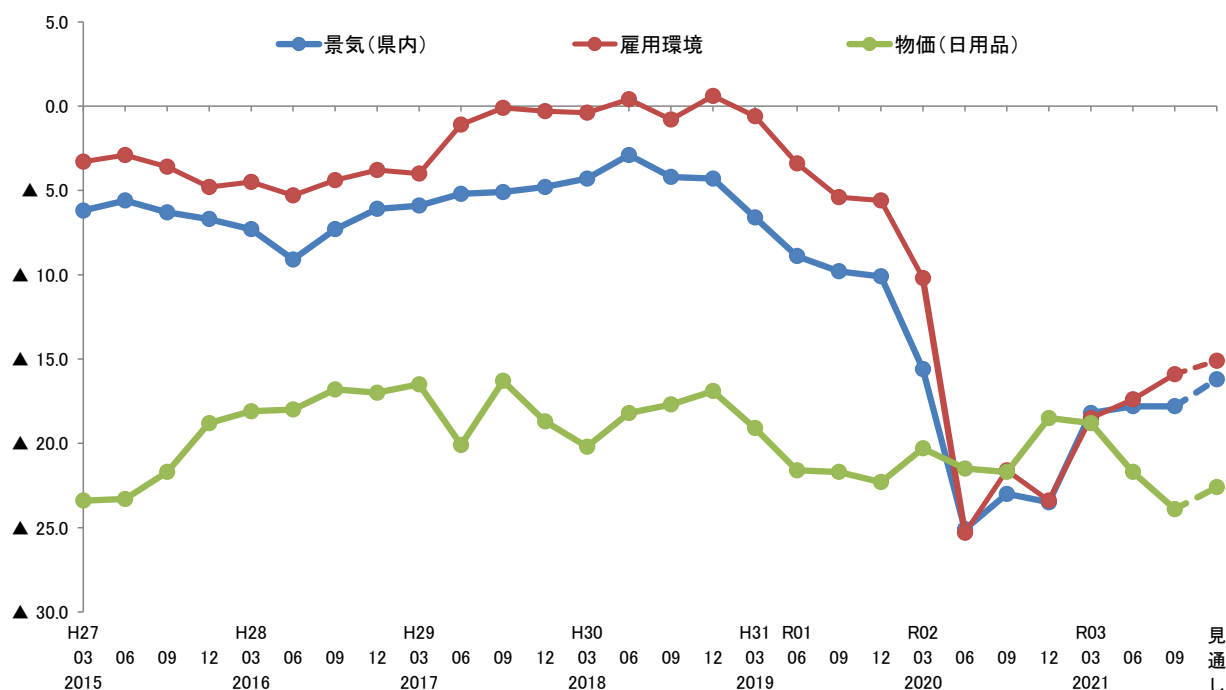
1. 景気判断

（1）景気判断の概況

景気判断指数は▲57.6（前期比0.7ポイント下落）と小幅ながら2期連続の悪化となった。景気判断指数を構成する3つの指数については、「景気（県内）」が▲17.8（前期比±0.0ポイント）、「雇用環境」が▲15.9（前期比1.5ポイント上昇）、「物価（日用品）」が▲23.9（前期比2.2ポイント下落）と、「景気（県内）」は横ばい、「雇用環境」は改善、「物価（日用品）」は悪化となった。

今後の見通しについては、▲53.9（今回調査比3.7ポイント上昇）と改善が見込まれている。

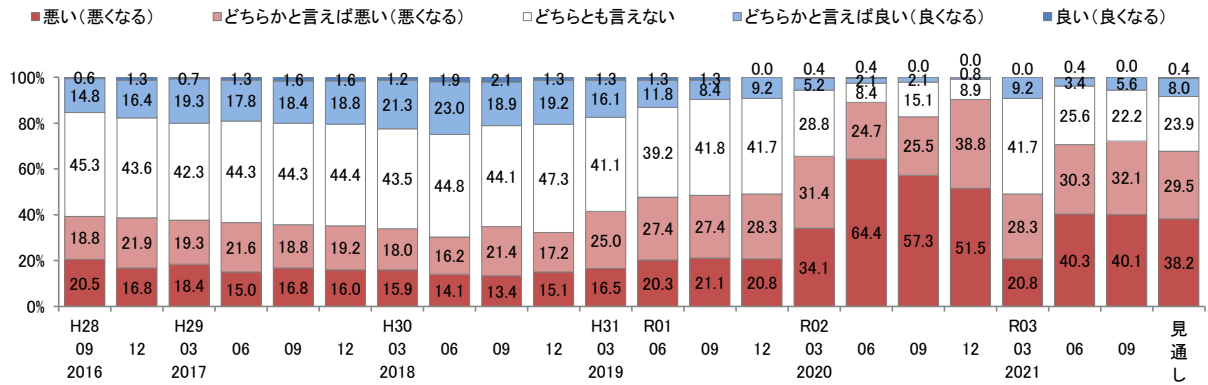
図表 3 景気判断指数（内訳）の推移



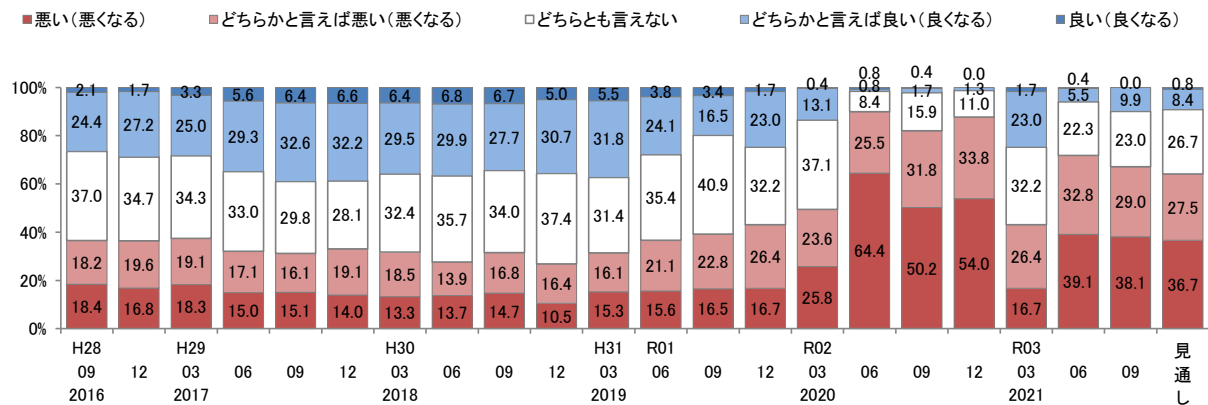
調査時期	景気判断指数				
	景気（県内）	雇用環境	物価（日用品）		
02年	3月	▲ 46.1	▲ 15.6	▲ 10.2	▲ 20.3
	6月	▲ 71.9	▲ 25.1	▲ 25.3	▲ 21.5
	9月	▲ 66.3	▲ 23.0	▲ 21.6	▲ 21.7
	12月	▲ 65.4	▲ 23.5	▲ 23.4	▲ 18.5
03年	3月	▲ 55.5	▲ 18.2	▲ 18.5	▲ 18.8
	6月	▲ 56.9	▲ 17.8	▲ 17.4	▲ 21.7
03年	9月	▲ 57.6	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 23.9
	(前期比)	(▲ 0.7)	(0.0)	(1.5)	(▲ 2.2)
	(前年同期比)	(8.7)	(5.2)	(5.7)	(▲ 2.2)
03年	見通し	▲ 53.9	▲ 16.2	▲ 15.1	▲ 22.6
	(前期比)	(3.7)	(1.6)	(0.8)	(1.3)

(2) 景気判断の推移

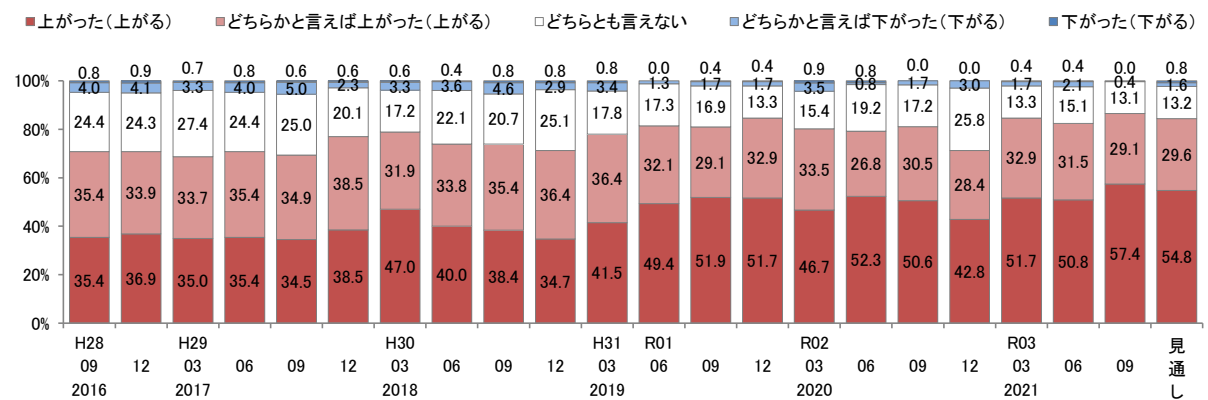
① 景気 (県内)



② 雇用環境



③ 物価 (日用品)



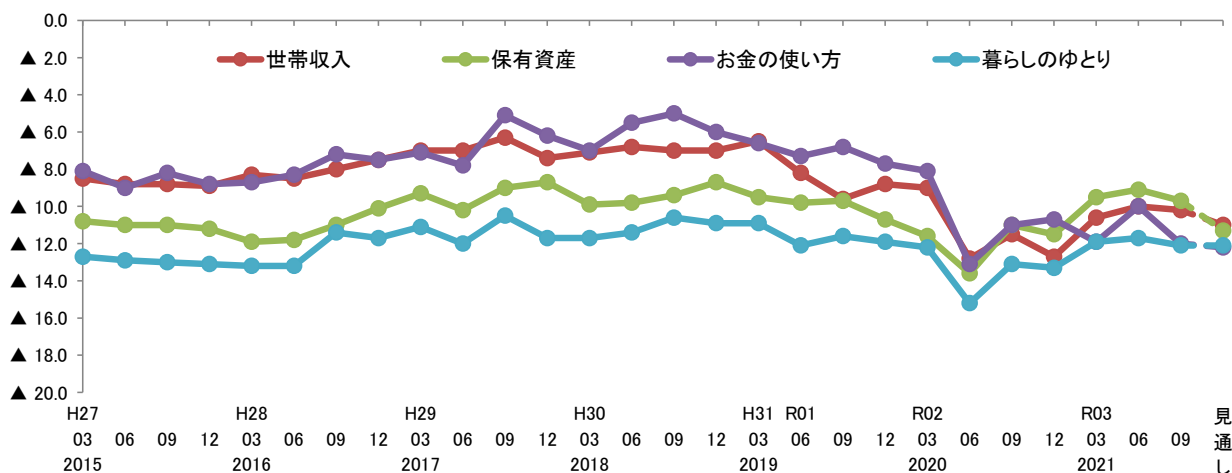
2. 暮らし向き判断

(1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲44.0（前期比 3.2 ポイント下落）と 3 期ぶりの悪化となった。暮らし向き判断指数を構成する 4 つの指数については、「世帯収入」が▲10.2（前期比 0.2 ポイント下落）、「保有資産」が▲9.7（前期比 0.6 ポイント下落）、「お金の使い方」が▲12.0（前期比 2.0 ポイント下落）、「暮らしのゆとり」が▲12.1（前期比 0.4 ポイント下落）と、「世帯収入」「保有資産」「暮らしのゆとり」はほぼ横ばい、「お金の使い方」で小幅ながら悪化となった。

今後の見通しについては、▲46.6（今回調査比 2.6 ポイント下落）と若干の悪化が見込まれている。

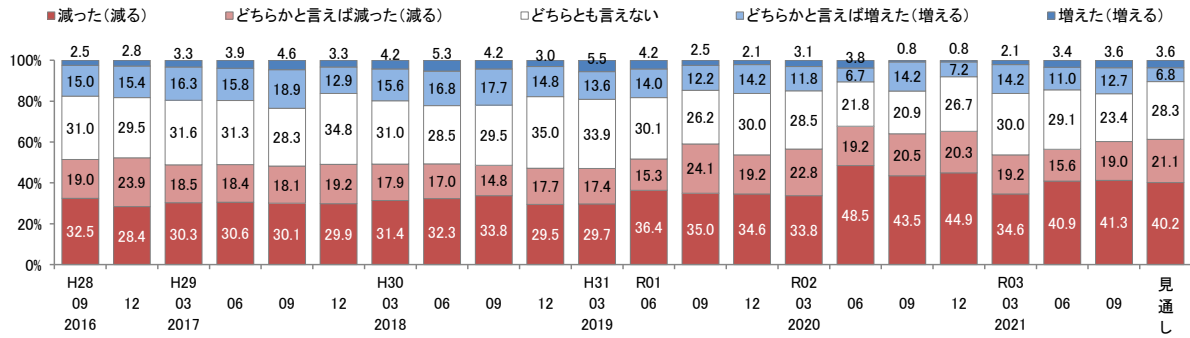
図表 4 暮らし向き判断指数（内訳）の推移



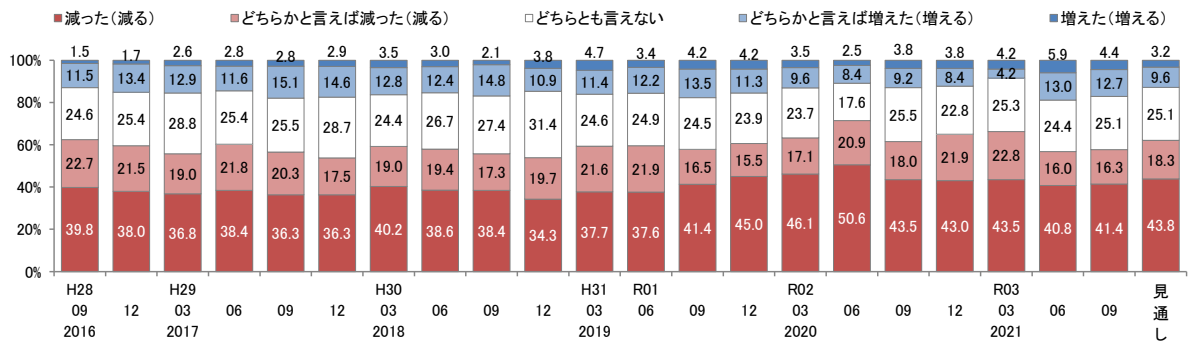
調査時期	暮らし向き判断指数					
		世帯収入	保有資産	お金の使い方	暮らしのゆとり	
02年	3月	▲ 40.9	▲ 9.0	▲ 11.6	▲ 8.1	▲ 12.2
	6月	▲ 54.7	▲ 12.8	▲ 13.6	▲ 13.1	▲ 15.2
	9月	▲ 46.6	▲ 11.5	▲ 11.0	▲ 11.0	▲ 13.1
	12月	▲ 48.2	▲ 12.7	▲ 11.5	▲ 10.7	▲ 13.3
03年	3月	▲ 43.9	▲ 10.6	▲ 9.5	▲ 11.9	▲ 11.9
	6月	▲ 40.8	▲ 10.0	▲ 9.1	▲ 10.0	▲ 11.7
03年	9月	▲ 44.0	▲ 10.2	▲ 9.7	▲ 12.0	▲ 12.1
	(前期比)	(▲ 3.2)	(▲ 0.2)	(▲ 0.6)	(▲ 2.0)	(▲ 0.4)
	(前年同期比)	(2.6)	(1.3)	(1.3)	(▲ 1.0)	(1.0)
03年	見通し	▲ 46.6	▲ 11.0	▲ 11.3	▲ 12.2	▲ 12.1
	(前期比)	(▲ 2.6)	(▲ 0.8)	(▲ 1.6)	(▲ 0.2)	(0.0)

(2) 暮らし向き判断の推移

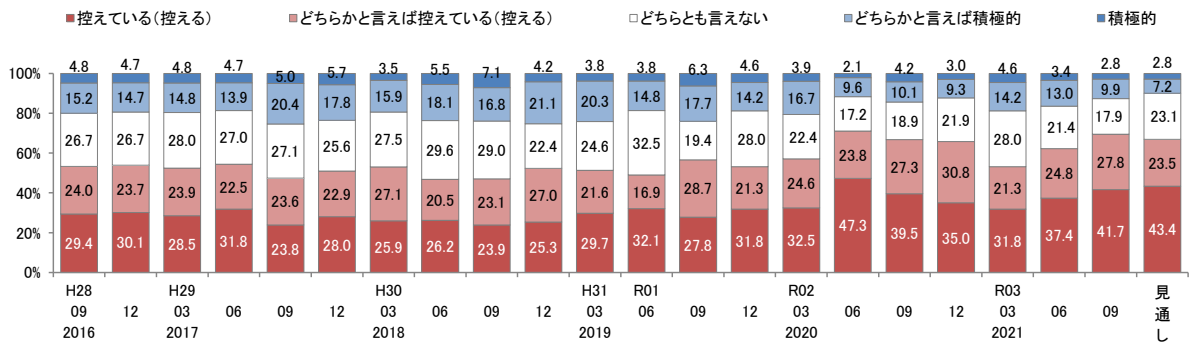
① 世帯（勤労）収入



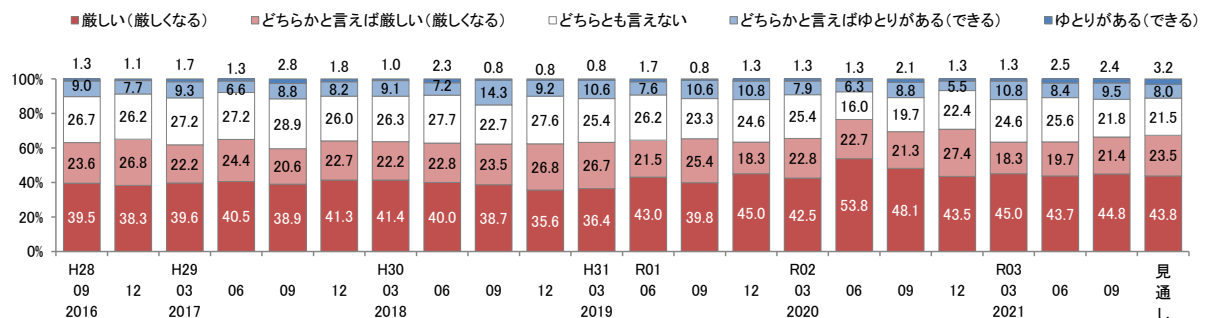
② 保有資産



③ お金の使い方



④ 暮らしのゆとり



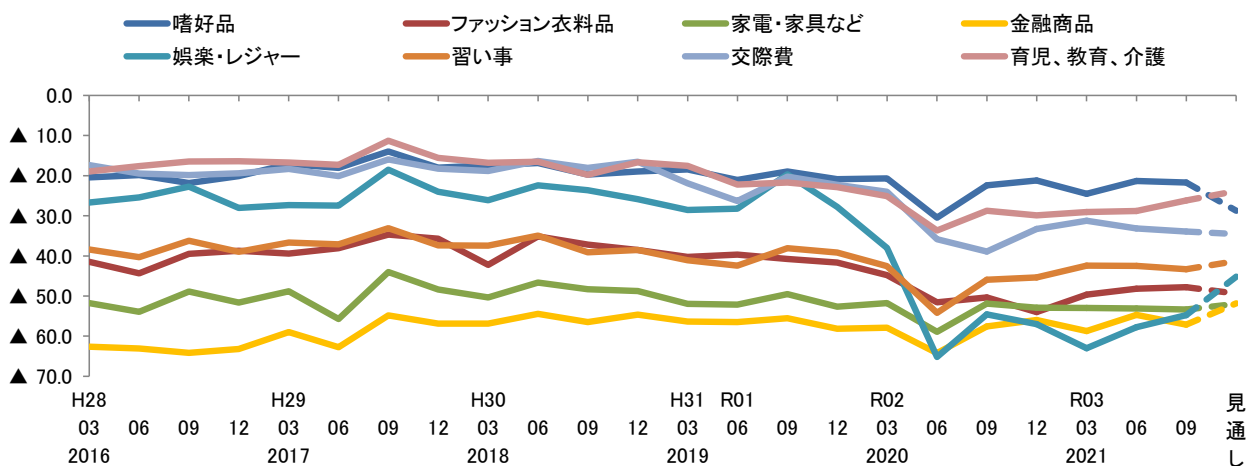
III. 支出意向

(1) 支出意向DIの推移

支出意向DIの平均値は、▲42.3（前期比0.1ポイント上昇）とほぼ横ばいとなった。支出意向DIを構成する8つの項目をみると、「娯楽・レジャー」など3項目で改善となった一方、「金融商品」や「交際費」など5項目で悪化となった。

今後の見通しは、▲40.8（今回調査比1.5ポイント上昇）と小幅ながら改善の見込みとなっている。

図表 5 支出意向DIの推移



調査時期	支出意向DI									
		嗜好品	ファッション衣料品	家電・家具	金融商品	娯楽レジャー	習い事	交際費	育児・教育・介護	
02年	6月	▲ 49.3	▲ 30.5	▲ 51.6	▲ 58.9	▲ 64.3	▲ 65.2	▲ 54.2	▲ 35.9	▲ 33.7
	9月	▲ 43.8	▲ 22.5	▲ 50.4	▲ 51.9	▲ 57.6	▲ 54.6	▲ 46.0	▲ 38.9	▲ 28.8
	12月	▲ 43.7	▲ 21.2	▲ 54.0	▲ 52.9	▲ 56.0	▲ 57.0	▲ 45.4	▲ 33.3	▲ 29.9
03年	3月	▲ 44.0	▲ 24.6	▲ 49.7	▲ 53.0	▲ 58.8	▲ 63.0	▲ 42.5	▲ 31.3	▲ 29.1
	6月	▲ 42.4	▲ 21.4	▲ 48.2	▲ 53.1	▲ 54.7	▲ 57.8	▲ 42.5	▲ 33.2	▲ 28.8
03年	9月	▲ 42.3	▲ 21.8	▲ 47.8	▲ 53.4	▲ 57.1	▲ 54.8	▲ 43.3	▲ 34.0	▲ 26.2
	(前期比)	(0.1)	(▲ 0.4)	(0.4)	(▲ 0.3)	(▲ 2.4)	(3.0)	(▲ 0.8)	(▲ 0.8)	(2.6)
	(前年同期比)	(1.5)	(0.7)	(2.6)	(▲ 1.5)	(0.4)	(▲ 0.1)	(2.7)	(5.0)	(2.6)
03年	見通し	▲ 40.8	▲ 28.8	▲ 49.4	▲ 52.0	▲ 51.8	▲ 45.2	▲ 41.3	▲ 34.6	▲ 23.8
	(前期比)	(1.5)	(▲ 7.0)	(▲ 1.6)	(1.4)	(5.3)	(9.6)	(2.0)	(▲ 0.6)	(2.4)

【DI値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り。

数値は四捨五入により一致しない場合があります。

例) 嗜好品DI値

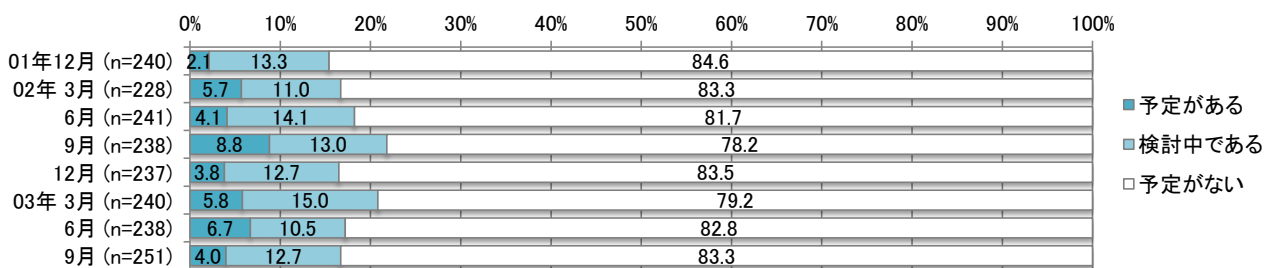
= (「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合×1.0+「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合×0.5) - (「3. どちらかと言えば控える」と回答した世帯の割合×0.5+「4. 控えている」と回答した世帯の割合×1.0)

(2) 支出意向 (大きな買い物) の推移

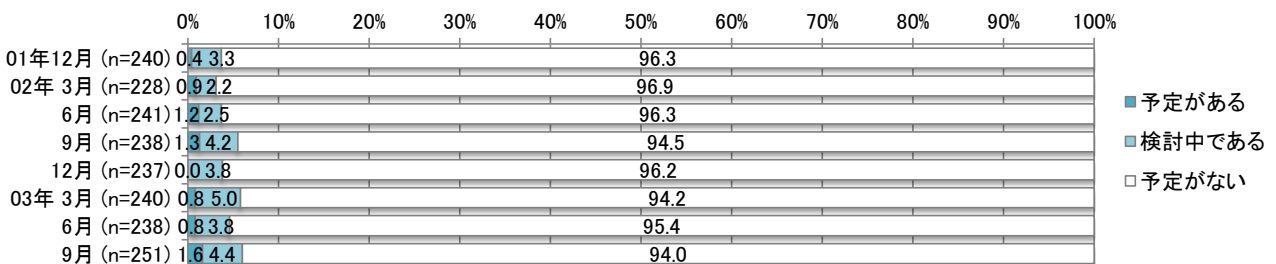
大きな買い物の支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」が 1.6% (前期比 0.8 ポイント上昇) で上昇となり、「自家用車 (中古車含む)」は 4.0% (前期比 2.7 ポイント低下)、「住宅リフォーム」は 2.8% (前期比 0.6 ポイント低下)、「海外旅行」は 0.0% (前期比 0.4 ポイント低下) と 3 項目で低下となった。

大きな買い物 (支出) に前向きな世帯 (「予定がある」に「検討中である」を合わせた世帯) の割合は、「住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地」が上昇した一方、「自家用車 (中古車含む)」「住宅リフォーム」「海外旅行」が低下した。

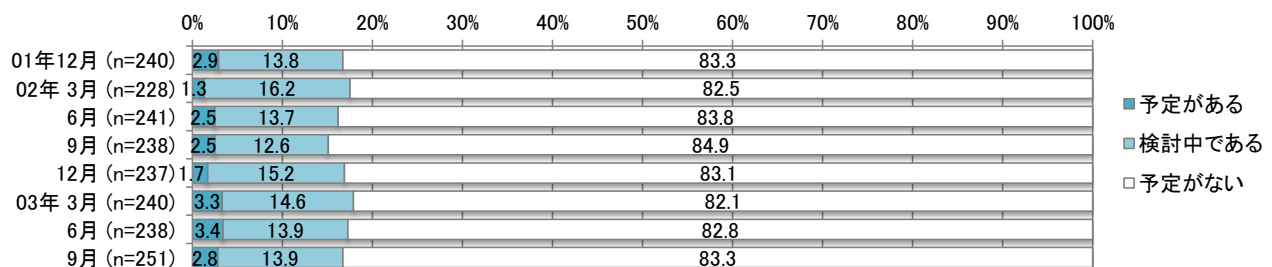
図表 6 自家用車 (中古車含む)



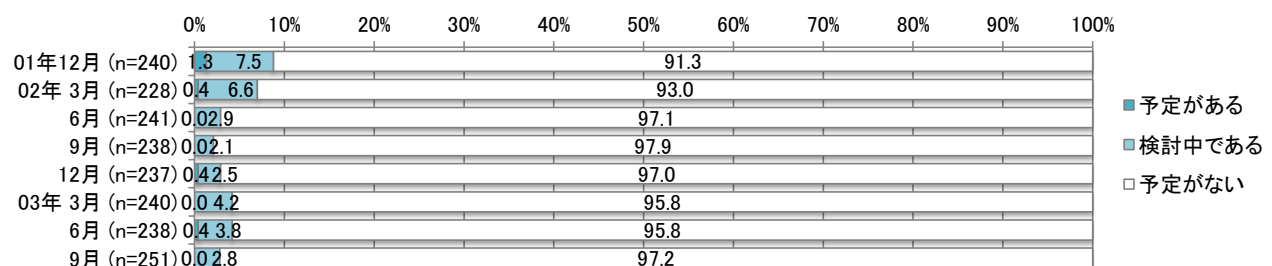
図表 7 住宅 (マンション・中古住宅含む)・土地



図表 8 住宅リフォーム



図表 9 海外旅行

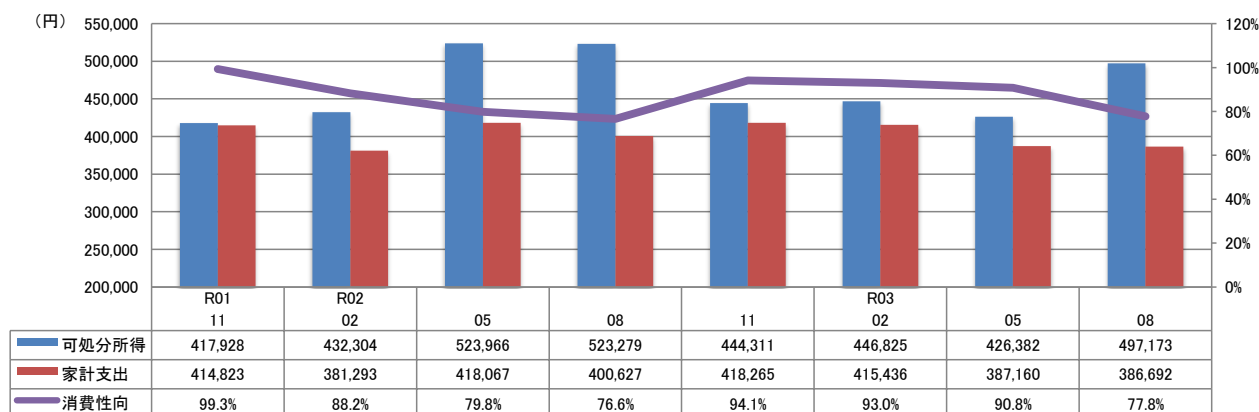


IV. 家計簿調査

図表 10 家計簿 (252 世帯平均)

調査項目		調査年月				
		02年 8月	03年 5月	03年 8月	(単位：円)	
					前期比	前年同期比
給 与	世帯主の定例給与《支給額》	313,510	321,047	324,711	3,664	11,201
	世帯主の臨時給与《支給額》	31,985	1,300	37,920	36,620	5,935
	A. 世帯主の給与《支給額》	345,495	322,347	362,631	40,284	17,136
	世帯員の定例給与《支給額》	137,446	137,097	133,462	▲ 3,635	▲ 3,984
	世帯員の臨時給与《支給額》	19,552	0	18,441	18,441	▲ 1,111
	B. 世帯員の給与《支給額》	156,998	137,097	151,903	14,806	▲ 5,095
世帯収入合計 《支給額》 (A+B)		502,493	459,444	514,534	55,090	12,041
収 入	世帯主の定例給与《手取り額》	246,280	252,955	256,740	3,785	10,460
	世帯主の臨時給与《手取り額》	27,673	988	32,540	31,552	4,867
	C. 世帯主の勤労収入合計 《手取り額》	273,953	253,943	289,280	35,337	15,327
	世帯員の定例給与《手取り額》	113,921	112,894	110,414	▲ 2,480	▲ 3,507
	世帯員の臨時給与《手取り額》	16,705	1,266	15,828	14,562	▲ 877
D. 世帯員の勤労収入合計 《手取り額》	130,626	114,160	126,242	12,082	▲ 4,384	
世帯勤労収入合計 《手取り額》 (C+D)		404,579	368,103	415,522	47,419	10,943
(手 取 り 額)	1. 公的年金給付(老齢、障害、遺族年金)	35,872	4,127	38,252	34,125	2,380
	2. 保険給付金(医療、介護、失業保険)	489	1,867	817	▲ 1,050	328
	3. 各種手当(児童手当など)	2,004	6,624	3,048	▲ 3,576	1,044
	4. 利息、株式配当、投信分配金	14,676	1,303	1,523	220	▲ 13,153
	5. 事業収入(個人事業、農林水産業など)	0	63	128	65	128
	6. 不動産収入(駐車場、アパート家賃など)	6,195	5,257	3,881	▲ 1,376	▲ 2,314
	7. 有価証券売却・解約金(株、投資信託など)	2,213	841	3,016	2,175	803
	8. 不動産売却(土地、住宅、マンションなど)	0	0	0	0	0
	9. 中古品売却(リサイクルショップなど)	565	812	442	▲ 370	▲ 123
	10. 保険満期返戻金	21,146	13,457	11,905	▲ 1,552	▲ 9,241
	11. 保険一時金(生命保険、損害保険など)	3,326	2,658	2,192	▲ 466	▲ 1,134
	12. 相続、贈与、退職金	16,736	1,266	5,556	4,290	▲ 11,180
	13. 祝金、謝礼金、香典など	628	300	742	442	114
	14. 身内からの仕送り	2,766	3,860	3,738	▲ 122	972
	15. 借入れ(カードローン、キャッシング)	6,635	13,018	1,394	▲ 11,624	▲ 5,241
	16. その他	5,449	2,826	5,017	2,191	▲ 432
E. その他収入(控除後)	118,700	58,279	81,651	23,372	▲ 37,049	
I. 収入計 (C+D+E)		523,279	426,382	497,173	70,791	▲ 26,106
支 出	1. 食費(飲食会費は含まない)	55,290	53,359	54,741	1,382	▲ 549
	2. 住居費(家賃、駐車場、修繕)	13,701	18,574	21,847	3,273	8,146
	3. 水道・光熱費(電気、ガス、上下水道、灯油など)	25,936	26,659	25,571	▲ 1,088	▲ 365
	4. 生活用品(生活雑貨、家事消耗品など)	11,416	11,674	12,107	433	691
	5. 被服・装飾費(衣服、アクセサリ等)	9,126	8,959	9,575	616	449
	6. 医療・介護・理美容(通院、医薬品など)	14,873	14,092	15,365	1,273	492
	7. 交通費1(バス、鉄道、飛行機、高速道路料金など)	2,773	2,262	2,227	▲ 35	▲ 546
	8. 交通費2(ガソリン代)	15,468	15,363	16,465	1,102	997
	9. 自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)	15,254	12,301	14,669	2,368	▲ 585
	10. 通信費(電話、新聞、受信料、プロバイダー料金など)	23,217	23,014	23,093	79	▲ 124
	11. 教育費(授業料、教材費、学習塾、部活費用など)	16,149	23,712	14,214	▲ 9,498	▲ 1,935
	12. 育児費(子ども用品、保育園、幼稚園など)	3,540	4,054	4,595	541	1,055
	13. 交際費(飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など)	13,124	11,163	13,733	2,570	609
	14. 娯楽、趣味(旅行、レジャー、映画鑑賞など)	10,005	6,287	9,461	3,174	▲ 544
	15. 習い事(英会話、料理教室、スポーツクラブなど)	1,856	3,441	2,924	▲ 517	1,068
	16. 高額商品(パソコン、家電、家具、インテリアなど)	20,792	5,187	7,397	2,210	▲ 13,395
	17. 金融商品1(株、国債、外貨、金など)	1,261	5,138	1,223	▲ 3,915	▲ 38
	18. 金融商品2(投資信託、変額・定額年金保険)	21,347	8,262	12,818	4,556	▲ 8,529
	19. 借入返済1(住宅ローン)	30,893	30,258	31,046	788	153
	20. 借入返済2(自動車、学費、カードローン)	14,742	12,453	16,631	4,178	1,889
	21. 税金、各種保険料支払い(給与天引き以外)	38,931	52,686	36,165	▲ 16,521	▲ 2,766
	22. 身内への仕送り(学生など)	7,863	8,876	7,446	▲ 1,430	▲ 417
	23. 小遣い、その他	33,070	29,386	33,379	3,993	309
II. 支出計		400,627	387,160	386,692	▲ 468	▲ 13,935
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		76.6%	90.8%	77.8%	▲ 13.0%	1.2%
平均貯蓄性向(1-平均消費性向)		23.4%	9.2%	22.2%	13.0%	▲ 1.2%

図表 11 家計の収支と平均消費性向の推移



家計簿調査によれば、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 497 千円と前年同期に比べて 26 千円の減少となった。勤労収入では、「世帯主の勤労収入合計（手取り額）」が前年同期比で 15 千円増加、「世帯員の勤労収入合計（手取り額）」は 4 千円の減少となり、「世帯勤労収入合計（手取り額）」は 416 千円（前年同期比 11 千円増加）となった。「その他収入（控除後）」は 82 千円（前年同期比 37 千円減少）で、減少額の大きな項目としては「利息、株式配当、投信分配金」（前年同期比 13 千円減少）や「相続、贈与、退職金」（前年同期比 11 千円減少）となった一方、大きく増加した項目はなかった。

支出面では、支出計が 387 千円と前年同期比で 14 千円の減少となった。内訳をみると、減少額が大きな項目は「高額商品（パソコン、家電、家具、インテリアなど）」（前年同期比 13 千円減少）や「金融商品 2（投資信託、変額・定額年金保険）」（前年同期比 9 千円減少）で、増加額の大きな項目は「住居費（家賃、駐車場、修繕）」（前年同期比 8 千円増加）となった。

その結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 77.8%となり、前年同期に比べて 1.2 ポイントの上昇となった。

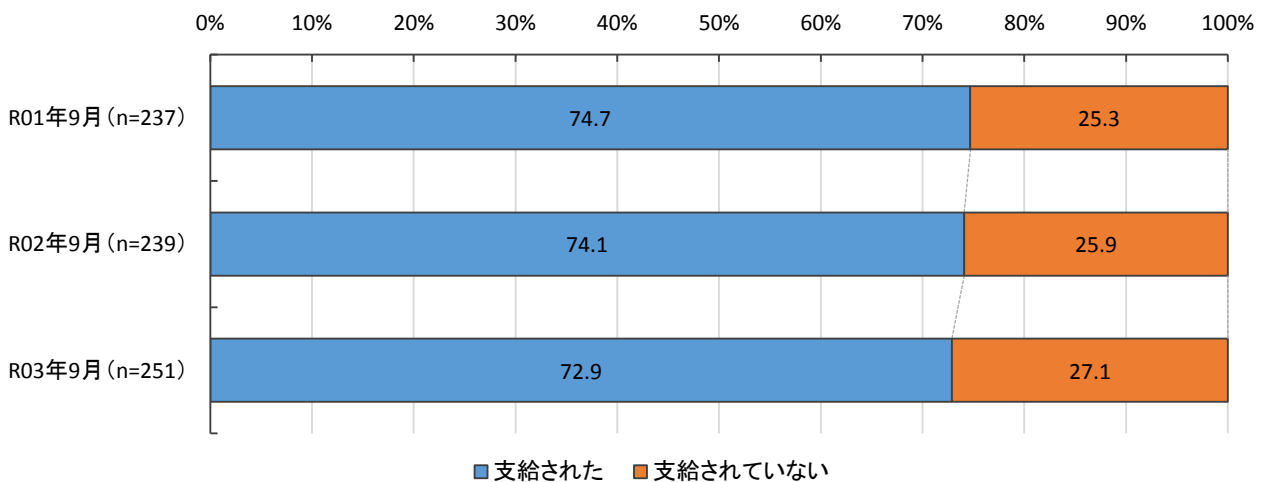
V. 特別調査

1. 夏季ボーナスの支給状況と使い道について

(1) 夏季ボーナス支給の有無

家計の主たる収入を得ている人について、夏季ボーナスが支給されたかどうかを尋ねたところ、「支給された」が 72.9%（前年比 1.2 ポイント低下）と前年に比べて低下したものの、7 割以上を占めた。

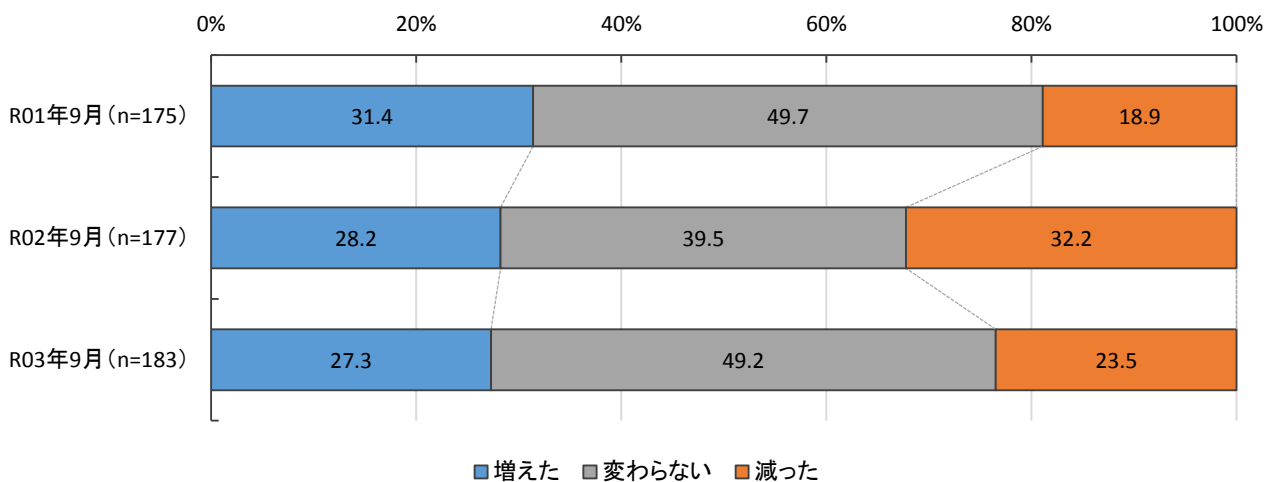
図表 12 夏季ボーナス支給の有無について



(2) 支給状況

夏季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、前年と比べた支給額の状況を尋ねたところ、「変わらない」が 49.2%（前年比 9.7 ポイント上昇）と最も高く約 5 割を占め、次いで「増えた」が 27.3%（前年比 0.9 ポイント低下）、「減った」が 23.5%（前年比 8.7 ポイント低下）となった。「増えた」世帯の割合は 2 期連続で低下となった。

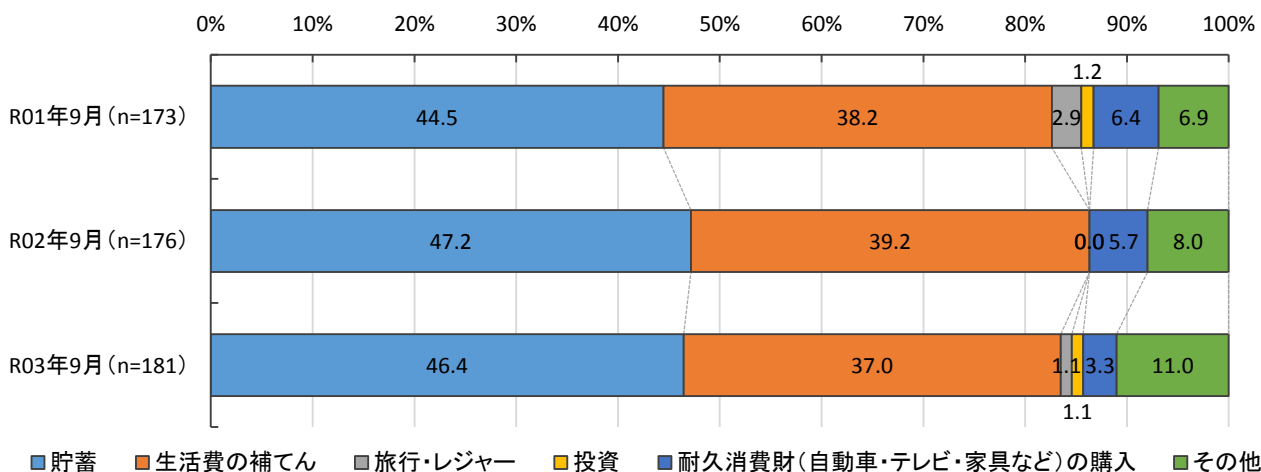
図表 13 前年の夏季ボーナスと比べた支給状況



(3) 主な使い道

夏季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、ボーナスの使い道（もっとも金額が大きいもの）を尋ねたところ、「貯蓄」が 46.4%（前年比 0.8 ポイント低下）ともっとも高く、次いで「生活費の補てん」が 37.0%（前年比 2.2 ポイント低下）となった。「貯蓄」「生活費の補てん」「耐久消費財（自動車・テレビ・家具など）の購入（3.3%）」が低下した一方、「旅行・レジャー（1.1%）」「投資（1.1%）」は上昇した。

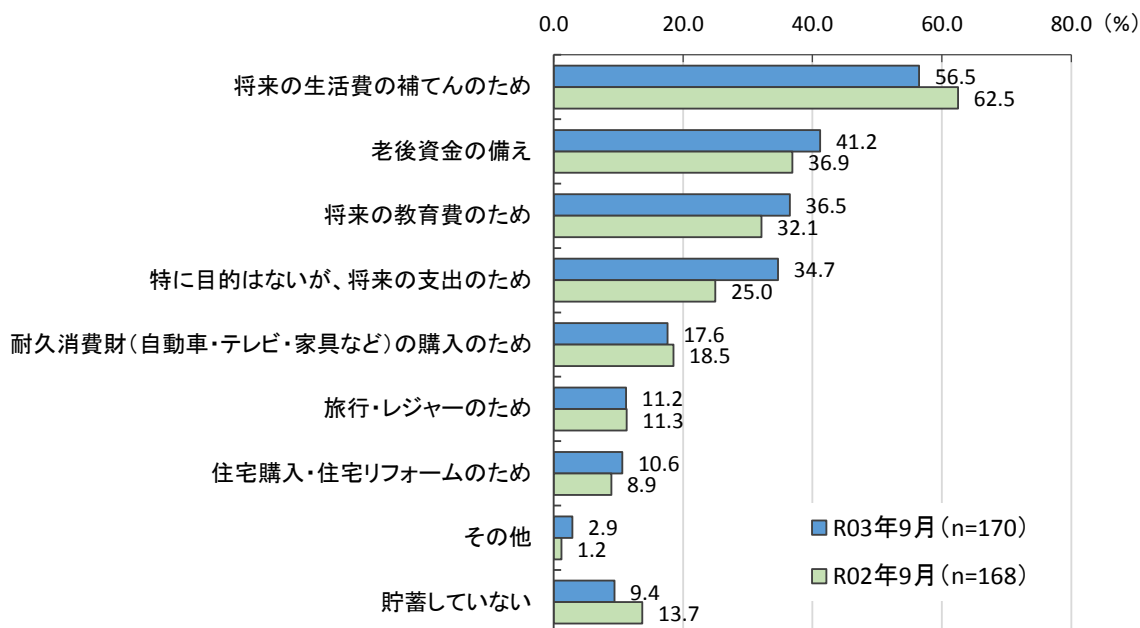
図表 14 主な使い道



(4) 夏季ボーナスを貯蓄する目的

夏季ボーナスが「支給された」と回答した世帯に、ボーナスのうち貯蓄にあてた分について、その目的を尋ねたところ、「将来の生活費の補てんのため（56.5%）」がもっとも高く 5 割以上を占めた。次いで「老後資金の備え（41.2%）」、「将来の教育費のため（36.5%）」、「特に目的はないが、将来の支出のため（34.7%）」と続き、前年と同様の結果となった。

図表 15 夏季ボーナスを貯蓄する目的（複数回答）



VI. 調査の概要

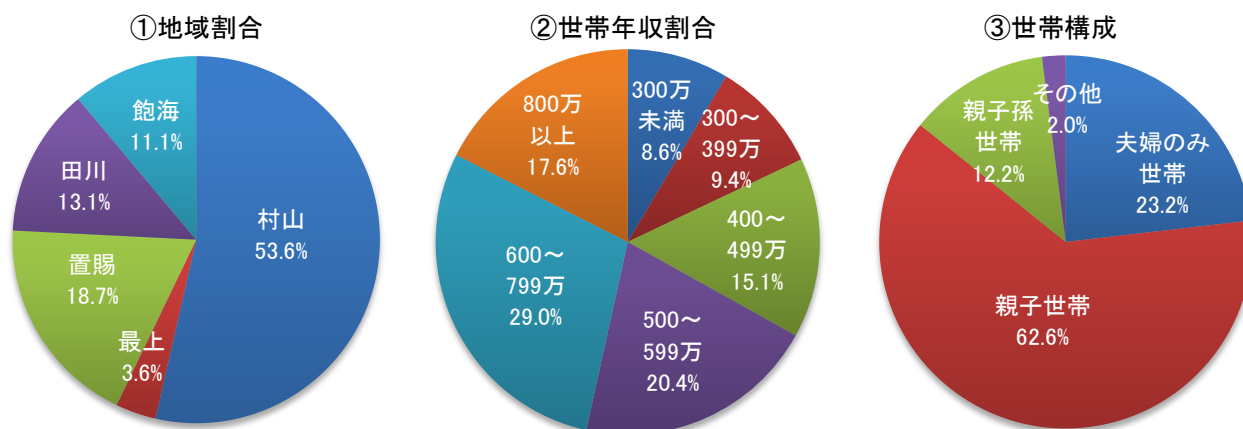
1. 調査の目的

山形県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の内容

- ◆ 郵送調査専用モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数：258 世帯 有効回答数：252 世帯 回答率：97.7%

3. 回答モニター属性



4. 調査の対象者

- ・山形県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数 2 人以上の世帯）

5. 調査期間

- ・令和 3 年 9 月 1 日（水）～15 日（水）

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研
 リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子
 〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F
 TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038
 E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : https://www.fir.co.jp/